

第2章 いじめの未然防止

2 「分かる授業」を通して（小学校編）～対話的な学び、自己有用感を促す授業づくり～

1 授業を通じた学級づくり

児童にとって、学校生活の大半は授業である。一人一人が活躍する授業を行えば、児童は達成感・充実感をもち、一人一人の「居場所づくり」につながる。また、児童が相互に関わり、互いに認め合い、高め合う授業を行えば、児童同士の「絆づくり」につながる。日々の授業の中で、いじめを生まない風土が培われていく。

「勉強が分からない、つまらない」と感じる児童は、主体的に学校生活を送ろうとする意欲を失いがちになり、問題行動を生む一因にもなっている。小学校段階では、学習規律を示し、基本的な学習態度を身に付けさせることも大切であるが、何よりも「学習する楽しさ」、「友達と学ぶ楽しさ」を、授業の中で体験的に感じさせることが大切である。

2 「分かる授業」づくり

全ての児童が参加し、活躍できる授業は、学力向上はもちろん、いじめの未然防止にもつながる。そのためには、生徒指導の3つの機能を重視した取組を基盤とし、グループ活動等の多様な学習形態を取り入れたり、他者と関わる言語活動を工夫したりして指導に当たることが大切である。

生徒指導の3機能を重視した「分かる授業」

①自己決定の場を与えるために

- ・課題設定の工夫 ・学習形態の工夫
- ・発表の場の設定 など

②自己有用感を育むために

- ・発言の機会を増やす ・個に応じた言葉掛け
- ・一人学びの場を設定する など

③共感的人間関係を育成するために

- ・話の聞き方の徹底 ・友達のよさを見付ける
- ・間違った応答でも笑わない など

3 授業展開の例 ～5年 算数科「体積」～


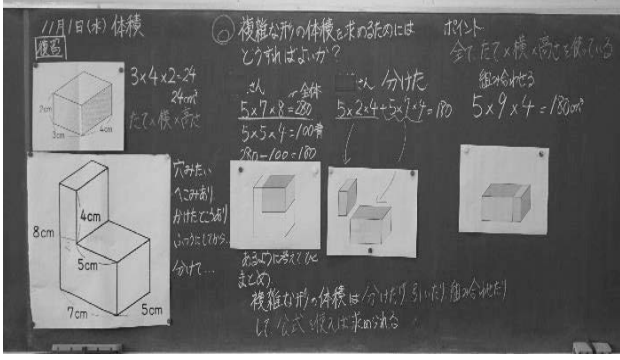
(1) ねらい

○複合図形の体積の求め方を考える活動を通して、分けたり、補ったりすれば直方体の求積公式が使えることに気付き、正しく体積を求めることができる。

(2) 展 開

学習活動	指導上の留意点
1 前時までの復習をする。 ・既習の課題について、直方体の体積を求める。	・これまでの学習内容を掲示し、自力で課題を解く手掛かりにする。 【②自己有用感を育む】
2 課題をつかむ。 ◎直方体でない立体の体積はどのように求めればよいか。 ・体積の求め方を、隣の人と確認する。	・児童のつぶやきを拾い、前時までの学習との違いを確認した上で、課題を提示する。 【②自己有用感を育む】 ・自分の考えをペアの相手に説明させる。 【①自己決定の場を与える】



<p>3 複合図形の体積の求め方を考える。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 一人で考える時間を確保する。 解法のヒントとなる、視聴覚機器やワークシートを準備する。 <ul style="list-style-type: none"> 【①自己決定の場を与える】 机間指導し、一人一人のよいところや努力している点を具体的に褒める。 <ul style="list-style-type: none"> 【②自己有用感を育む】 1つの求め方を見つけた児童には、別の求め方も考えるよう指示する。 <ul style="list-style-type: none"> 【①自己決定の場を与える】
<p>4 自分の求め方を説明する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に一人一人の求め方を把握し、発言の順番を決めておく。 発表を聞く態度が優れた児童を全体で紹介する。(発表者の方に体を向けている、うなずきながら聞いている 等) 多くの児童が活躍できるように、部分的な説明を促したり、理由を尋ねたりする。 <ul style="list-style-type: none"> 【③共感的人間関係を育成する】 視聴覚機器を使い、分かりやすく説明したり、思考過程が分かるように板書を工夫したりする。 <ul style="list-style-type: none"> 【①自己決定の場を与える】 解決途中で中断した求め方などを取り上げ、全体で考えを交流させる場を設けてもよい。(「〇〇さんの求め方の続きを考えたおかげで、みんなの学びが深まった」等のフォローをする。) <ul style="list-style-type: none"> 【③共感的人間関係を育成する】
<p>5 本時の学習をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童の言葉を使ってまとめを書く。 <ul style="list-style-type: none"> 【②自己有用感を育む】
<p>6 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰の、どのような考えによって、自分の考えが深まったり、新たな考えを獲得したりできたか等を振り返る。 <p>(授業後)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多様な求め方があることを確認し、互いのよさに気付くようにする。 <ul style="list-style-type: none"> 【②自己有用感を育む】 【③共感的人間関係を育成する】 ノートを点検し、コメントを書いたり、理解が不十分な児童には個別指導をしたりする。 <ul style="list-style-type: none"> 【②自己有用感を育む】

*参考文献：生徒指導提要（文部科学省、平成 22 年 3 月）、「授業における生徒指導」（岩手県立総合教育センター、平成 19 年 5 月）

○「分かる授業」づくりは、児童の主体性、自己有用感を高め、よりよい人間関係の構築につながる。